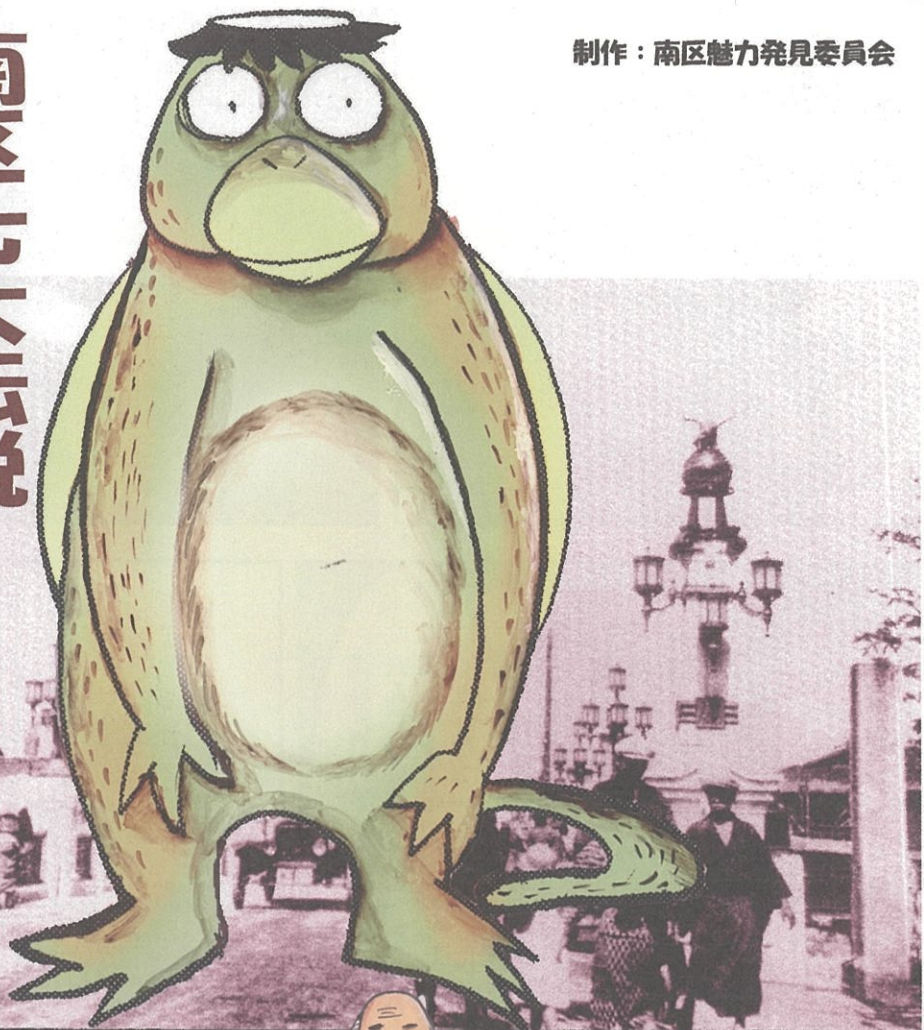


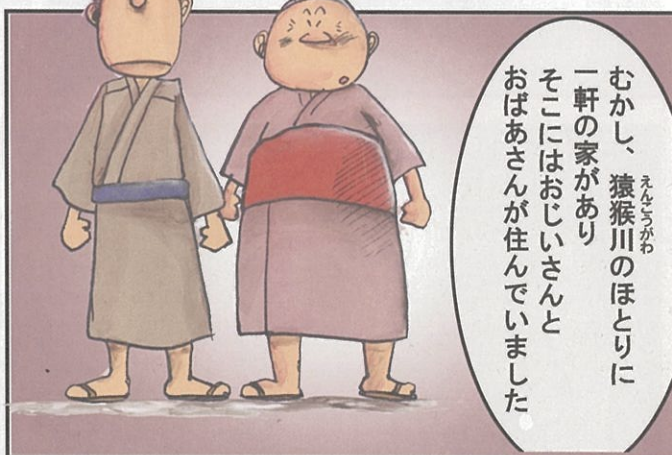
南区七大伝説

読みがたり広島のおかし話「えんこつ」
(広島直学校図書協議会編著・株式会社日本標準発行) を元に制作しました。

河童猿猴伝説



寝苦しい夏の夜
水を飲もうと
おばあさんは
目を覚ましました

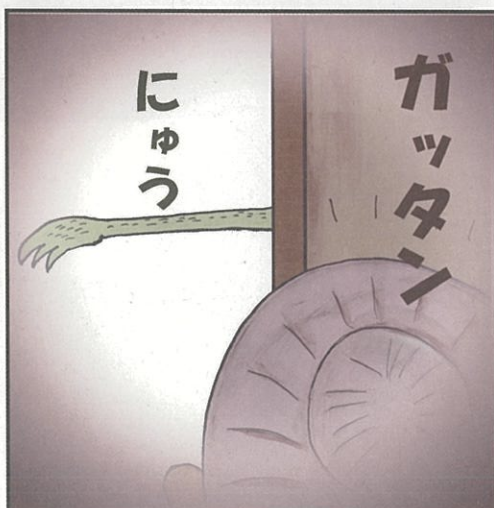


むかし、えんこつがわ猿猴川のほとりに
一軒の家があり
そこにはおじいさんと
おばあさんが住んでいました



でっ出たあ

うぎゃー!



にゅう

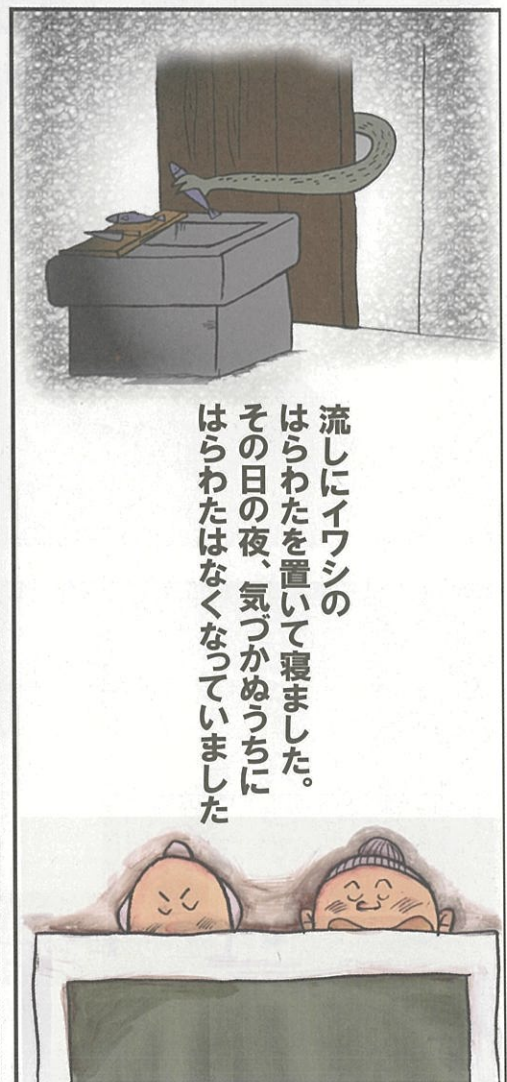
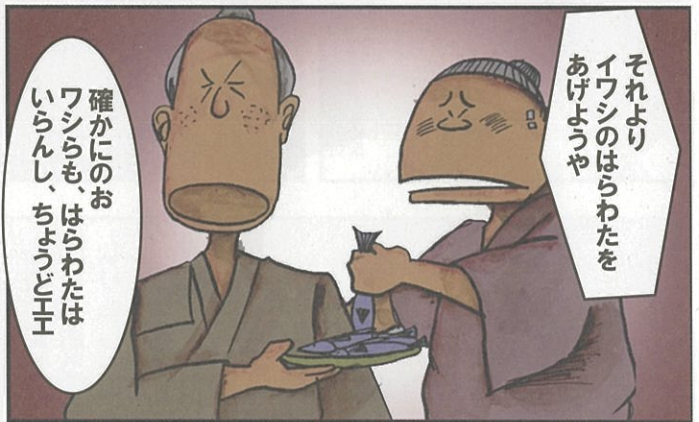
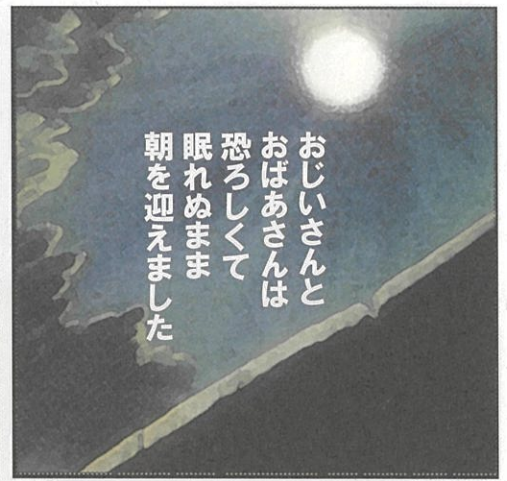
ガッタン



暑うて、寝とられん
水でも飲もう

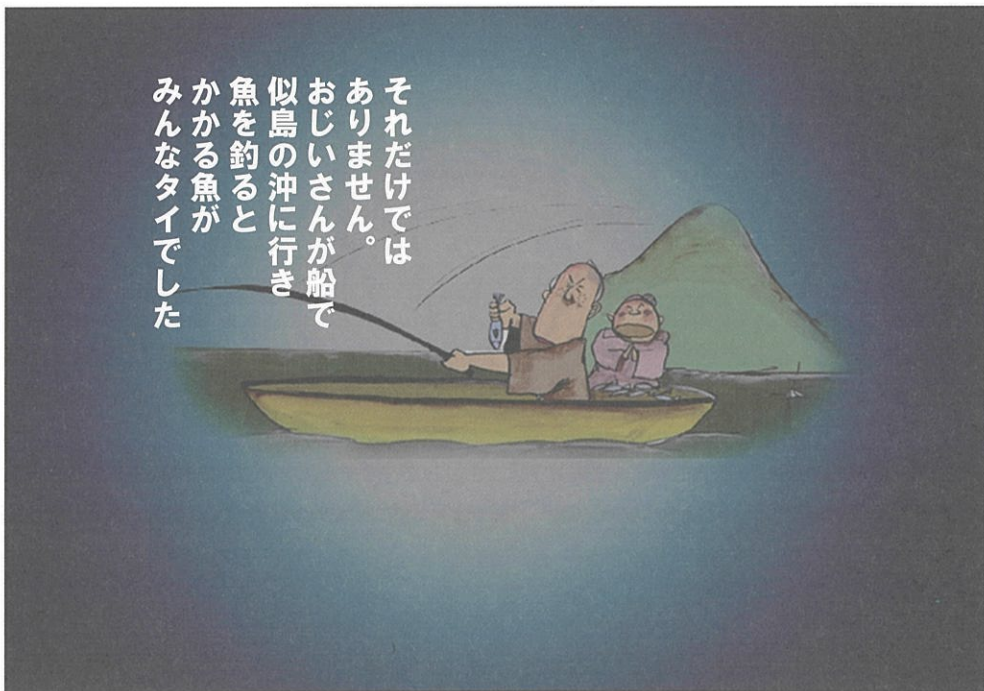


*えべせえ：広島弁で「おそろしい」

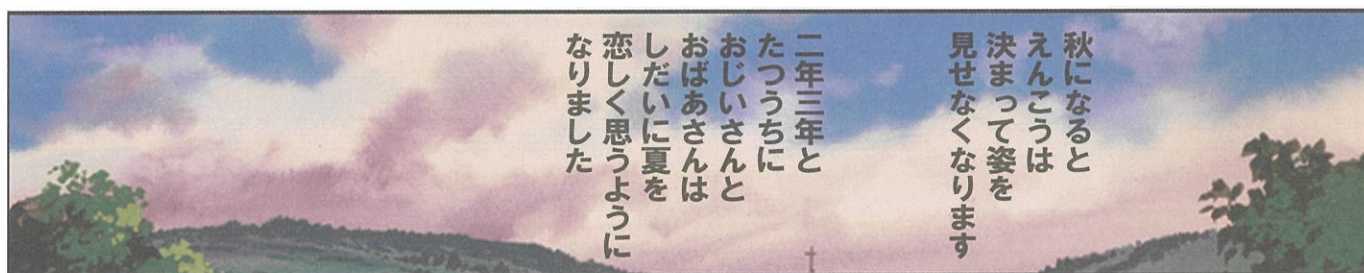




そのタイはめづばう味がよく
町中の評判となりました



それだけでは
ありません。
おじいさんが船で
似島の沖に行き
魚を釣ると
かかる魚が
みんなタイでした

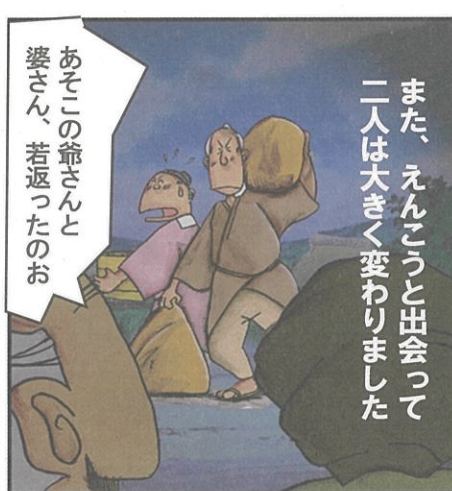


秋になると
えんこうは
決まって姿を
見せなくなります

二年三年と
たつうちに
おじいさんと
おばあさんは
しだいに夏を
恋しく思うよう
になりました



ほれだけじゃないで
はぶりもよおなつての
爺さんの釣った魚は
飛ぶように売れるらしいで



あそこの爺さんと
婆さん、若返ったのお

また、えんこうと出会って
二人は大きく変わりました

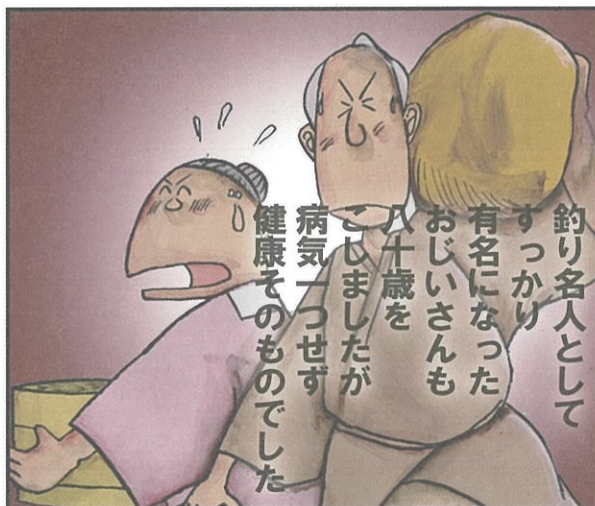


はよう、えんこうがこんかねえ

はよう夏がこんかのう



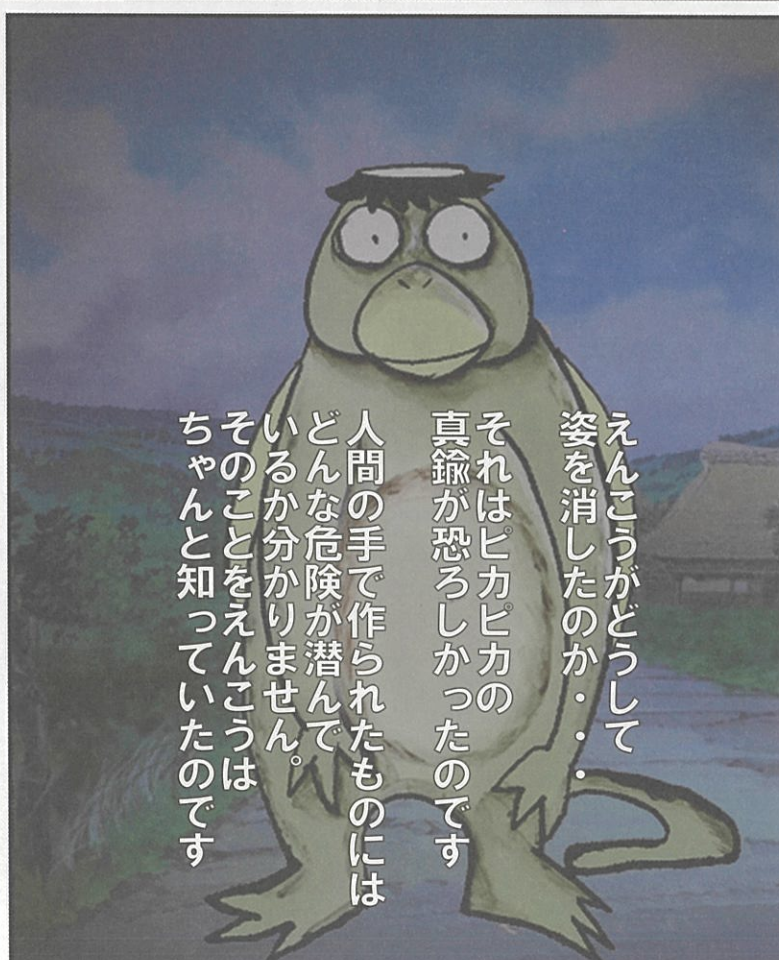
しかし、流し台は
昔のままです。
知らず知らずの内に
腐りはじめていました



釣り名人として
すっかり
有名になった
おじいさんも
八十歳を
こえました
が
病氣一つせず
健康そのものでした



その日のうちに
立派な真鍮を
はめました、
その日を境に、えんこうは姿を
あらわすことはありませんでした



猿猴川の河童猿猴

南区魅力発見委員会風土記編さん部会 野田 雄司

はじめに

南区を流れる太田川の分流である猿猴川は、かつて河童猿猴が住む川として有名でした。近年、この河童がマスコットとして南区で活躍しています。また、猿猴川沿いの段原地区や猿猴橋地区で河童まつりが盛大に催されており、河童が大いに注目されています。

全国の河童の呼び名

今日、河童は、全国的に愛すべき妖精・妖怪のイメージが出来上がり、漢字は河童、呼称はかっぱで通用していますが、これは昭和二年に発表された芥川龍之介の小説「河童どく」かKAPPAと発音して「かさい」に端を発し、その後の漫画、テレビ、催事でのキャラクター表現が影響していると考えられます。

本来、河童は水の神や霊や妖怪であり、各地で呼称・形状・性質が異なり、人の生活や信仰と密接に係わる怖い存在でした。河童の全国各地での呼び名は「かっぱ」「かっぱこぞう」「かわこぞう」「かわこ」「かわたろう」「がたろう」「えんこう」「かわうそ」「みずち」「がめ」など多彩です。また、通常、ひらがなまたはカタカナで表記されることも多いのですが、地名になった場合は漢字等でも表記されているようです。

猿猴(えんこう)の伝承地域

広島県では、河童を猿猴と呼んでいた地域が多く、中国四国の各県や福岡県、大分県も同様です。いずれも室町時代に大陸との交流が盛んであった地域であり、漢字で「猿猴」と表記されていることから、華南の寧波廈門

の港経由で渡来したと察せられます。猿猴にまつわる民話は千差万別ですが、その容姿等には多くの共通点があります。背は子供並で手は長く猿に似ており、頭上に水皿を持つものもいます。一般に力持ちで相撲好き、いたずら好きで水辺につないだ馬を引っばるとの言い伝えもあります。金物が嫌なこと、人へ化けたり人を溺れさせたりするのですが、たまには人助けすること、また、間抜けなところもあって憎めない存在で、鬼のように嫌われるだけの存在ではないようです。

猿猴川の猿猴の由来について

このことについては、川の神に起源があると思われまふ。広島城築城(1589年)以前の猿猴川は、比治山の北側あたりが川口で、豊富な魚貝が獲れる場所でした。そして、さらに大昔、川の右岸では、縄文人が約三千五百年前から比治山貝塚を拠点に、川の左岸では弥生人が約二千三百年前から牛田早稲田貝塚を拠点に、猿猴川や川口周辺を漁場にして暮らしていました。貝塚からは、大量の貝殻のほか鯛などの魚の骨が出土しており、豊漁や水難防止を願う対象として、身近な動物か、架空の動物を川神として崇め祭ってきたことでしょう。その後、この川神に加え、猿猴民話が伝わり、猿猴川の河童猿猴が生まれたと見られます。

猿猴川の河童猿猴は、毛利氏時代には「えんろう・エンロウ(猿郎)」と呼称されていました。毛利氏の居城があった安芸高田市吉田町の可愛川の淵にいたとされるガタロウ(河太郎)と猿猴川の猿猴が合わさり、この

ように呼ばれたのでしょうか。江戸時代に入つて、福島氏時代には「えんかう・エンカウ(えんこうの古語)」に変わり、浅野氏時代には「猿猴」の漢字表現が見受けられます。

猿猴橋の由来

猿猴橋が初めて架橋されたのは、毛利輝元による広島城築城の2年後の1591年で、京橋とほぼ同時期に完成しており、417年の歴史を有しています。橋の名称は、河童猿猴が住む川に架ける橋として、えんろう橋・エンロウ橋と名づけられ、京橋は京街道の起点として京橋と名づけられています。(芸州広島城下町図)

その後、江戸時代初期(1654年)の京橋町割之図を見ますと、えんかう橋のほとりに十五軒の魚屋が並び、さながら魚市場の様子です。場所がら猿猴は魚屋さんや漁師の地神でもあったと思われまふので、猿猴川や京橋川のほとりに猿猴大明神を祭った小さな社かほこらがありそうな気がしましたのでさがしてみましたが、今のところまだ見つていません。なお、大正15年に新しく、鷺のブロンズ像が置かれた現在の橋は、石橋で親柱に「えんこうは志」と「猿猴橋」の名が刻まれています。

また、猿猴橋の北側は、400年前の福島氏時代にえんかう橋町が形成され、京街道の旅立ちの町となり、浅野氏時代以降は、西国街道の宿場町として明治の頃まで大変にぎわっていました。

猿猴川の猿猴の昔話

猿猴川の猿猴は、どのような姿や特徴があったのでしょうか。江戸・明治時代の昔話によると、姿は猿に似ていて、毛むくじゃらです。手が長くて伸縮自在で、力が強く、人を溺れさせ、人の肝や尻こたえをぬくといわれています。川や沿岸での漁獲を左右する力

もあり、金物が嫌いで義理堅く恩返しをすることなどが、その特徴として伝承されています。

なお、猿猴川と京橋川の分岐点はデビ(鼻又は端)と呼ばれており、江戸時代から子供の遊び場でした。しかし、このあたりは、現在と異なり水量が多く、流れが複雑で深い淵があり、流れに巻き込まれ溺れ死んだ子供も多いと伝えられており、親は子供達にえんこうが居るから危険な箇所だ泳がないように注意していました。猿猴川や京橋川や上流の神田川で遊ぶ子供にとって、猿猴は見近な妖精であると同時に場合によっては、水中に引き込み溺れさせる恐い妖怪でもあったのです。

現在の猿猴川からは想像できませんが、昔の人達は猿猴を超自然現象の生き物として、心からその存在を信じ代々伝えてきたのです。私たちも、猿猴が伝えられてきた長い歴史を考えたとき、次代へ伝える努力をしなければと思うのです。

参考文献

- 1 広島城下町絵図集成 広島市中央図書館発行
・芸州広島城町割之図(1595年頃)
・芸州広島城下町割之図
・江戸時代初期1654年の京橋町割之図
- 2 猿猴川のえんこうの昔話
・広島のみか話「えんこう」 日本標準文化研究室発行
・河童伝承大事典「広島県の河童」 和田寛著 岩田書院発行
・広島県民族資料「伝説」 えんこう 村岡浅夫著 中本本店発行
・広島県民族資料「昔話」 水の神のふみ使い 村岡浅夫著 中本本店発行
・安芸の伝説 えんこう 藤井昭著 第一法規

河童猿猴の プロフィール

▼ かつばとえんこうの違い

河童は水界に住む想像上の動物で、川などに住む水の神・精霊・妖怪の総称です。日本古来の水の精が原型で、ほとんどの子どもは体形をしていると考えられていたため、「河（かわ）」と童（わらわ）」が変化し「かわかつば」となり、それが略され「かつば」の呼び名となった説が有力です。もともと関東地方の呼び名でしたが、近年全国化しています。

一方、えんこうはその河童の一種とされていますが、その由来や姿が河童とは異なります。えんこうは「猿猴」と表されるように、大陸系の猿神が原型で、それが日本に伝わる途中で水神に変化したようです。姿は猿に似て茶色の体毛に覆われています。有名な西遊記の沙悟浄（河神）は日本ではかつばのイメージですが、えんこうは、それよりも孫悟空のほうがよりイメージに近いでしょう。

▼ 猿猴は妖怪ではなく神様だった

猿猴は、縄文時代から信仰の対象であった水の地神に加えて、室町時代に中国・四国・北九州地方の交易船や倭寇船の船乗りを通じ、アジア大陸の東南アジアや華南沿岸地方から移入されたインド起源の猿神ハヌマーンが合わさり水神猿猴が生まれたとみられます。

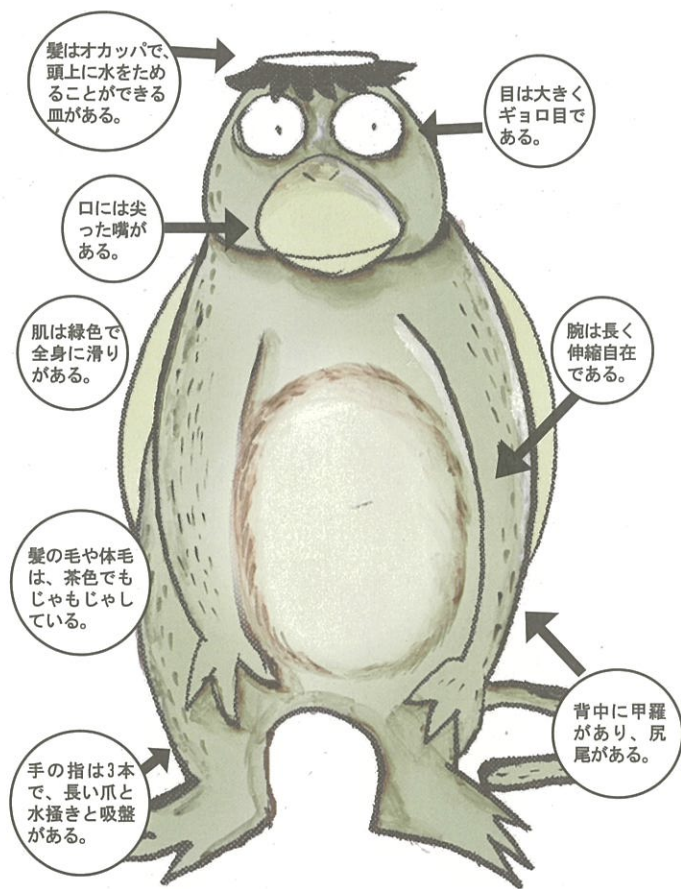
猿猴がこのような水神であったことは、これらの地方の本土沿岸や瀬戸内の島々に海の猿猴伝説が数多く伝えられてきたこと、

又、各地の河で五百年以上続く水神祭りで水神猿猴が主人公として大切に扱われてきた事実があげられます。

南区の猿猴橋は、広島城築城直後の1591年に完成しましたが、当時の広島の人々は、この大切な橋の名に水神猿猴を冠し、川の治水と橋の安全を祈願したのです。猿猴は元来、インドの猿神のように人助けの神様でした。その後江戸時代に入り、猿猴が水難事故などを引き起す恐ろしい妖怪に仕立てられましたが、明治以降は、一転して人間に近い妖精として表現されるようになり、マスコットの存在になっています。

△注Vハヌマーンは、2千年前頃インドでまとめられた叙事詩「ラーマヤナ」に登場する猿神で、魔王にさらわれた王妃を猿の大群を指揮し救出します。この物語は、東南アジア全域に伝播し、中国の西遊記にも影響を与えています。

猿猴伝説が伝わる中国・四国・北九州地方における猿猴の姿には、次のような共通の特徴があります。体形は、1メートル位で、全体的には雄猿に近い姿をしています。総じて、体形や体毛は猿、肌（顔手足）は蛙、甲羅は海亀、水中の姿はカワウソ、嘴は水鳥のイメージである。



かつばマップと えんこうマップ

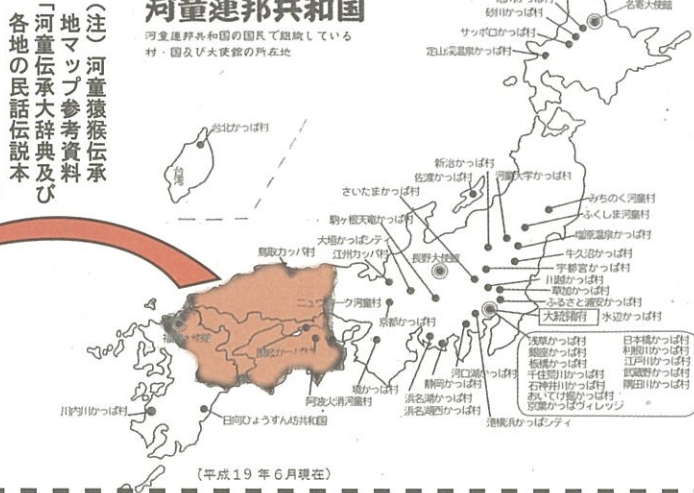
全国各地に伝わる河童伝説。かつばをキーワードにまちおこしの取り組みが盛んに行われています。その様子を表したのが、次の河童連邦共和国の地図です。

この地図をご覧になってわかると思いますが、瀬戸内海を中心とした中四国・九州の一部にばかりと空白地帯があるのがわかると思います。実はこの地域では河童のことを猿猴と呼んでいるのです。

また、この辺りは室町時代（1338～1573年）にアジア大陸との交易や倭寇など、船で往来した地域と重なります。このことから猿猴が、一般のかつばと異なった伝わり方をしたことが伺えます。

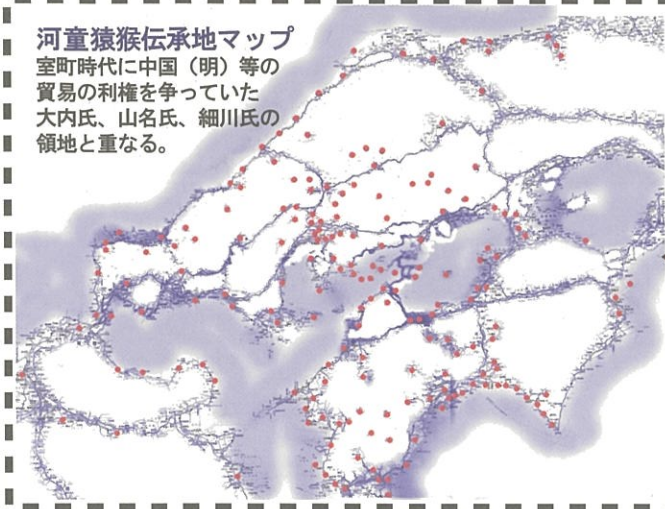
河童連邦共和国

河童連邦共和国の国民で組織している村・国及び大使館の所在地



河童猿猴伝承地マップ

室町時代に中国（明）等の貿易の利権を争っていた大内氏、山名氏、細川氏の領地と重なる。



南区河童猿猴地図

段原東集会所前の河童像

地域の集会所建設を記念して
据えられた相撲をとる河童像は
公園で遊ぶ子ども達を、今日も
優しく見守ります。

大正橋の河童像

地域の人が街のシンボルにと
購入し、設置した河童像。
そこでは毎年、河童まつりが
盛大に開催されています。

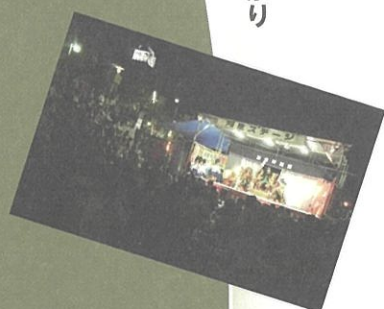
猿猴の名前がつく川

河童にまつわる話、全国津々浦々に
ありますが、大都市で河童が
地名になったり、川の名前、
橋の名前になったりした
例は殆どありません。

四百年の歴史を誇る
猿猴橋町、猿猴川、猿猴橋の
名前、大切にしたいですね。

段原猿猴川河童まつり

南区の住民主導の祭としてすっかり
定着した猿猴川河童まつり
今や広島の水辺の
風物詩となっています。
主役は勿論、河童！
毎年多くの人で賑わいます。



日本中に広まった
南区の河童
南区を南北に流れる猿猴川
河童にまつわる話は色々あり
ます。とりわけ有名なのは、
何といっても全国的に広まった
宇品生まれのカルビーの
かっぱえびせんです。

ゆるキャラ「きゅー太」
段原地区町づくり協議会から
生まれた「きゅー太」は、
イベントなどで活躍し、
子ども達の人気者です。

